

第3回意見交換会 記録

1. 日時：令和元年 11 月 9 日 14 時 00 分～15 時 20 分
2. 場所：相生山緑地
3. 団体名：相生山緑地内道路早期完成協議会
4. 市出席者：緑政土木局企画経理課 岩本主幹（企画）、上杉主査（企画）
道路維持課 水谷主査（安全対策）
道路建設課 山中課長、可児主査（事業調整）
緑地事業課 岩本課長、中村緑地計画係長
5. 参加者：23 名
6. 当日の次第
 - (1) 開始のあいさつ
 - (2) 現地説明、質疑等
 - (3) 終了のあいさつ
7. 主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）
（意見交換会について）
 - この公園の説明は、道路に関係あるのか？
 - 市長の方針として公園整備があるので、公園の説明をした。
（緑地計画について）
 - 公園として整備することと、環境を理由に道路をやめることは矛盾している。
 - ただ道路を廃止するだけでなく、自然を守って公園を造っていくという表明である。ただ、公園計画によって自然を壊しては意味がないので、どのような形がいかを皆さんと決めていきたい。
 - 公園整備の前提の話となっているが、人が入っていないところに人が入るようになれば、誰が考えても環境が悪化するに決まっている。
 - 全く手を入れないのいいのかということそうではないと考えている。生物の多様性を守るためにも、管理は必要。
 - 森の中の公園は子供たちが危ないのでは？
 - 公園にもいろいろな種類があるので、意見を聴いていきたい。防犯は配慮する必要あると思っている。
（道路について）
 - 市長が変われば変わることもあるのでは？
 - いずれにしても、地域の方に望まれる形にしていきたいというのが想いである。理解を得られないまま、進めていくことはない。
 - 一度都計審で認められている中で現在の状況にあることについて、都計審から怠慢だと指摘はないのか？
 - 都計審はそのようなことをする場ではない。
 - 都計審から怠慢だと指摘はないのであっても、世間が道路の廃止は受け入れられない。一度決めたらやり通すべきだ。廃止の合理的な理由がわからない。市長の発言は理由にはならない。

- 道路を造ってほしい方にもその理由があり、反対の方にも理由がある。
- 自然を 100%保全することは無理だが、ある程度の保全は可能なはず。ホテルが道路をつくらない理由にはならない。
- どちらの意見もある中で、市長が自身で考えて決めた。
- 具体的に理由を言わないと分からない。ホテルと言われても、100%保全することは無理だとしても、100%を保全する必要はないと思う。
- 市長判断としては、道路を造ることで自然をこわす、できる限り守るということだと考えている。
- やると決まったことはやらないとだめだ。
- ホテルのためなのか？ホテルを守ることというのは誰だってわかることだ。
- 環境保全というのは曖昧な表現だ。市長に対して言いたい。
- 環境に配慮した道路なのに、市長は何に反対しているのかわからない。
- 未着手の部分の施工するとしたらあとどのくらいかかるのか？
- 想定ではあるが、現状は自然がかなり浸食してきていたり、構造物の基準が変わったりして見直しがあることもあり、5年程度かかると思う。また、施工の枠組みもなくなったので、それをつくるのにも時間が必要。
- それもやめたことが原因だ。
- 公園の話は、道路を造らないことの言い訳だ。
- いつ完成予定だったのか？
- 平成 25 年くらいである。
- 事業評価実施しているのか？
- 対象外なのでやっていない。
- (その他)
- 都計審は議会の承認が必要だと思うが状況は？
- 都計審と議会は別の会である。ただし、都計審には委員として市議会議員も含まれている。現時点では都市計画道路である。市長の方針を実現するためには、都計審で廃止をしなければならない。
- 道路反対派は地域の方か？
- どちらもいる。
- 地域の方とそれ以外の方の割合は？
- 把握していない。
- 地域の声聞くのであれば、市民団体の声を聞く必要はないのでは？
- 市民団体は道路事業を進めていたときから要望をいただいております、関係は深いと思っています。